

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	なにわ歯科衛生専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	歯科衛生士学科 (昼間部)	夜・通信	525	240	
	歯科衛生士学科 (夜間部)	夜・通信	525	135	
		夜・通信			
		夜・通信			
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ： https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	なにわ歯科衛生専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

アドレス「 https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/ （情報公開）」の役員名簿
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社エビススポーツ マッサージ社長 (2008.6.1～)	2021.4.1～ 2023.3.31	企画・調整
非常勤	公益社団法人全国柔整 鍼灸協会監事(2016.4.1 ～)・学校法人福寿会 理事(2020.4.1～)	2022.4.1～ 2024.3.31	産学連携
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	なにわ歯科衛生専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<p>毎年度シラバスを作成し、年度当初に学生に印刷物を配布している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの内容 開講科目名・対象学年・単位数・時間数・担当教員名・授業概要・目的・到達目標・成績評価方法および基準・教材・留意事項・授業計画（1回の授業ごとの内容） ・シラバスの作成プロセス 授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本 年度当初に印刷物を学生に配布 	
授業計画書の公表方法	授業計画を印刷し、配布するとともに、教職員室に設置し、希望者は誰でも閲覧可能な状態で公表している。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。

・成績

学業成績は、学科試験及び実習並びに平素の成績により評定する。

各教科目の成績評価点は、100点満点とし、SA(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とし、C以上を以て合格とする。

・受験資格

各教科目を履修した者

講義によって行われる教科目は、各教科目の授業時間数の2/3以上出席した者

実習科目については、各教科目の授業時間数の4/5以上出席した者

臨地実習(臨床実習を含む)については、9/10以上の出席を要す。

・追試験

病気、その他止むを得ない理由で試験を欠席した者で、所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し追試験を実施する。

追試験の成績は80点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

・再試験

不合格になった教科目につき行う。

所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し再試験を実施する。

成績評価は60点以上を60点、59点以下を不合格とする。

・履修条件

臨地実習(臨床実習を含む)は、各年次の専門基礎分野、基礎分野の単位を修得しているか、修得見込であること。

2年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。

3年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次及び2年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)																					
<p>履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均を算出して成績管理と学習指導を行っている。(100点満点で点数化)</p> <p>各教科目の成績評価点は、100点満点とし、SA(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とし、C以上を以て合格とする。</p> <p>・成績評価の通知 半期ごとに当該年度における成績及び出席状況について単位取得証明書を作成して学生本人または保護者に通知している。</p> <p>・学生指導への活用 半期ごとに履修科目の成績評価を点数化し、成績不良の学生に対して担任による個別面談及び個別指導を実施している。</p>																					
客観的な指標の 算出方法の公表方法	ホームページ： https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html																				
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。																					
(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)																					
<p>当該年次に開講されるすべての教科目の単位を修得した者について進級を認める。</p> <p>本校に、休学期間を除き3年以上在学し、所定の教科目を履修しその単位を修得した者について卒業を認定する。</p> <p>・昼間部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">基礎分野</td> <td style="padding-left: 20px;">13 単位 (225 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">専門基礎分野</td> <td style="padding-left: 20px;">27 単位 (405 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">専門分野</td> <td style="padding-left: 20px;">63 単位 (1,815 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">選択必修分野</td> <td style="padding-left: 20px;">12 単位 (360 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="padding-left: 20px;">115 単位 (2,805 単位時間)</td> </tr> </table> <p>・夜間部</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding-left: 20px;">基礎分野</td> <td style="padding-left: 20px;">10 単位 (150 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">専門基礎分野</td> <td style="padding-left: 20px;">23 単位 (345 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">専門分野</td> <td style="padding-left: 20px;">58 単位 (1,740 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">選択必修分野</td> <td style="padding-left: 20px;">7 単位 (165 単位時間)</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">計</td> <td style="padding-left: 20px;">98 単位 (2,400 単位時間)</td> </tr> </table>		基礎分野	13 単位 (225 単位時間)	専門基礎分野	27 単位 (405 単位時間)	専門分野	63 単位 (1,815 単位時間)	選択必修分野	12 単位 (360 単位時間)	計	115 単位 (2,805 単位時間)	基礎分野	10 単位 (150 単位時間)	専門基礎分野	23 単位 (345 単位時間)	専門分野	58 単位 (1,740 単位時間)	選択必修分野	7 単位 (165 単位時間)	計	98 単位 (2,400 単位時間)
基礎分野	13 単位 (225 単位時間)																				
専門基礎分野	27 単位 (405 単位時間)																				
専門分野	63 単位 (1,815 単位時間)																				
選択必修分野	12 単位 (360 単位時間)																				
計	115 単位 (2,805 単位時間)																				
基礎分野	10 単位 (150 単位時間)																				
専門基礎分野	23 単位 (345 単位時間)																				
専門分野	58 単位 (1,740 単位時間)																				
選択必修分野	7 単位 (165 単位時間)																				
計	98 単位 (2,400 単位時間)																				
卒業の認定に関する 方針の公表方法	ホームページ： https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html																				

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	なにわ歯科衛生専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.heisei-iryo.ac.jp/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療		医療専門課程	歯科衛生士学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
3 年	昼	2805 単位時間 / 単位	1905 単位時間 /95 単位		900 単位時間 /20 単位			
		単位時間 / 単位						
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
216 人		229 人	0 人	18 人の内数	96 人の内数	114 人の内数		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要） 毎年度シラバスを作成し、年度当初に学生に印刷物を配布している。
・シラバスの内容 開講科目名・対象学年・単位数・時間数・担当教員名・授業概要・目的・到達目標・成績評価方法および基準・教材・留意事項・授業計画（1回の授業ごとの内容）
・シラバスの作成プロセス 授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本 年度当初に印刷物を学生に配布
成績評価の基準・方法
（概要） 以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。
・成績 学業成績は、学科試験及び実習並びに平素の成績により評定する。

各教科目の成績評価点は、100点満点とし、SA（90点以上）、A（80点以上）、B（70点以上）、C（60点以上）、D（60点未満）とし、C以上を以て合格とする。

・受験資格

各教科目を履修した者

講義によって行われる教科目は、各教科目の授業時間数の2/3以上出席した者
実習科目については、各教科目の授業時間数の4/5以上出席した者
臨地実習（臨床実習を含む）については、9/10以上の出席を要す。

・追試験

病気、その他止むを得ない理由で試験を欠席した者で、所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し追試験を実施する。

追試験の成績は80点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。

・再試験

不合格になった教科目につき行う。

所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し再試験を実施する。
成績評価は60点以上を60点、59点以下を不合格とする。

・履修条件

臨地実習（臨床実習を含む）は、各年次の専門基礎分野、基礎分野の単位を修得しているか、修得見込であること。

2年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。

3年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次及び2年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。

卒業・進級の認定基準

（概要）

当該年次に開講されるすべての教科目の単位を修得した者について進級を認める。

本校に、休学期間を除き3年以上在学し、所定の教科目を履修しその単位を修得した者について卒業を認定する。

・昼間部

基礎分野 13単位（225単位時間）

専門基礎分野 27単位（405単位時間）

専門分野 63単位（1,815単位時間）

選択必修分野 12単位（360単位時間）

計 115単位（2,805単位時間）

学修支援等

（概要）

毎月開催の学年会議において、生徒の生活状況と欠席状況について共有している。
担任と保護者の連絡を密にし、本人の状況と保護者の意向を聞いた上で指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他

79人 (100%)	0人 (0.0%)	55人 (69.6%)	24人 (30.4%)
(主な就職、業界等) 歯科診療所・病院			
(就職指導内容) 求人票を随時掲示の上、個別就職指導を行う。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 歯科衛生士 介護職員初任者研修 ガイドヘルパー(全身性障がい・知的障がい) 歯科医療事務			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
237人	12人	5.1%
(中途退学の主な理由) 進路変更・健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による本人および保護者との面談により随時状況を把握し、連携を取った上で指導を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	歯科衛生士学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	夜	2400 単位時間 / 単位	1500 単位時間 / 78 単位	0 単位時間 / 0 単位	900 単位時間 / 20 単位	0 単位時間 / 0 単位	0 単位時間 / 0 単位
			単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
108人		113人	0人	18人の内数	96人の内数	114人の内数	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 毎年度シラバスを作成し、年度当初に学生に印刷物を配布している。
・シラバスの内容 開講科目名・対象学年・単位数・時間数・担当教員名・授業概要・目的・到達目標・成績評価方法および基準・教材・留意事項・授業計画(1回の授業ごとの内容)

<p>・シラバスの作成プロセス 授業担当教員ごとにシラバスの作成を依頼 教務で取りまとめ、点検後に印刷・製本 年度当初に印刷物を学生に配布</p>
<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要) 以下の指標を基に、すべての授業科目について適切に評価している。評価方法等については学生便覧に明示するとともに、年度当初に実施するオリエンテーションで詳しく説明している。</p> <p>・成績 学業成績は、学科試験及び実習並びに平素の成績により評定する。 各教科目の成績評価点は、100点満点とし、SA(90点以上)、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(60点未満)とし、C以上を以て合格とする。</p> <p>・受験資格 各教科目を履修した者 講義によって行われる教科目は、各教科目の授業時間数の2/3以上出席した者 実習科目については、各教科目の授業時間数の4/5以上出席した者 臨地実習(臨床実習を含む)については、9/10以上の出席を要す。</p> <p>・追試験 病気、その他止むを得ない理由で試験を欠席した者で、所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し追試験を実施する。 追試験の成績は80点満点とし、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。</p> <p>・再試験 不合格になった教科目につき行う。 所定の手続きを経た者に対して、受験資格を与え、受験票を発行し再試験を実施する。 成績評価は60点以上を60点、59点以下を不合格とする。</p> <p>・履修条件 臨地実習(臨床実習を含む)は、各年次の専門基礎分野、基礎分野の単位を修得しているか、修得見込であること。 2年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。 3年次の専門基礎分野、専門分野は、1年次及び2年次の専門基礎分野、専門分野の単位を全て修得していること。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 当該年次に開講されるすべての教科目の単位を修得した者について進級を認める。</p> <p>本校に、休学期間を除き3年以上在学し、所定の教科目を履修しその単位を修得した者について卒業を認定する。</p> <p>・昼間部 基礎分野 13単位(225単位時間) 専門基礎分野 27単位(405単位時間) 専門分野 63単位(1,815単位時間)</p>

選択必修分野 12 単位 (360 単位時間) 計 115 単位 (2,805 単位時間)
学修支援等
(概要) 毎月開催の学年会議において、生徒の生活状況と欠席状況について共有している。 担任と保護者の連絡を密にし、本人の状況と保護者の意向を聞いた上で指導を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
38 人 (100%)	0 人 (0.0%)	24 人 (63.2%)	14 人 (36.8%)
(主な就職、業界等) 歯科診療所・病院			
(就職指導内容) 求人票を随時掲示の上、個別就職指導を行う。			
(主な学修成果 (資格・検定等)) 歯科衛生士			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114 人	4 人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更・健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任による本人および保護者との面談により随時状況を把握し、連携を取った上で指導を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
歯科衛生士学科 (昼)	100,000 円	640,000 円	300,000 円	
歯科衛生士学科 (夜)	50,000 円	590,000 円	280,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) <p>学校関係者評価は、外部（企業や業界関係者、講師、学生等、本校の教育に携わる方）からの客観的な評価やアンケートを学校運営に反映させるものであり、大変重要なものであると認識する。また自己評価を精査し透明性や客観性を高めること、誤った方向性や不十分な事項が発生する場合は指摘を行うことにより、関係者と本校とで状況改善のため連携を取るものとする。</p> <p>医療業界は日々進歩しており、歯科医療業界もまた新たな症例や技術の進歩が見られる。そのような状況から、学内で知識・技術を修得することはもちろんであるが、実際に臨床の現場で学ぶことも多いと考えている。本校では、こういった知識や技術を身に付ける実践的な教育を行うため、臨床現場に携わる企業や専門性を持つ企業からの意見を積極的に取り入れ、編成に活かすことを重要視している。</p> <p>また歯科衛生士養成校であることから、就職先の大半が歯科医院（病院や診療所）となる。卒業後直ぐに医療の現場に勤めることから、企業等と連携した実践的な内容を取り入れ、優れた人材を育成することに力を入れている。</p> <p>教育課程編成委員会を中心とし、次の点を重視して、課程編成を確立する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 最新の技術・知識・情報の修得 ② 臨床現場および専門施設での実習を通じた技術の修得 ③ 社会的視野の拡大、思考力の育成 <p>また歯科衛生士の基本となる学習以外にも、多様な教育内容を取り入れることで、視野の拡大や人間的な成長を促すことにも配慮する。</p> <p>教育課程編成委員会は、なにわ歯科衛生専門学校教職員と業界関係者・企業等からの外部委員とで構成し、より優れた教育課程の編成を行う組織として位置付けている。学校既定の講義のみではなく、外部委員からの意見も取り入れた多角的な編成を検討する。</p> <p>教育課程編成に係る意思決定は、原則8月と2月に行うこととする。</p>
学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
大阪府歯科医師会 理事・医療法人美和会 平成歯科クリニック 院長	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
日本歯科審美学会 名誉会員・みやうちデンタルクリニック 歯科医師	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
公益社団法人 大阪府歯科衛生士会 専務理事	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
医療法人美和会 平成野田クリニック 院長	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
株式会社ヨシオカ 代表取締役会長	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
株式会社ヨシオカ 代表取締役社長	令和4年2月1日～ 令和6年1月31日 (任期更新)	関連業界等関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.naniwa-dental.ac.jp/info/disclosure.html
--

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

*「-」は、個人情報へ配慮するための伏字であり、記載すべき合計値等には一切影響を与えないことに注意すること。

学校名	なにわ歯科衛生専門学校
設置者名	学校法人平成医療学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		46人	43人	47人
内 訳	第Ⅰ区分	31人	27人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				47人
（備考）				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	一人
3月以上の停学	0人
年間計	一人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	0人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。